



兼城御嶽と植物群落

指定名称 かねぐすく うたき しよくぶつくんらく
 兼城御嶽と植物群落
 (町指定史跡・天然記念物)

所在地 久米島町字兼城金城6-1, 7-1

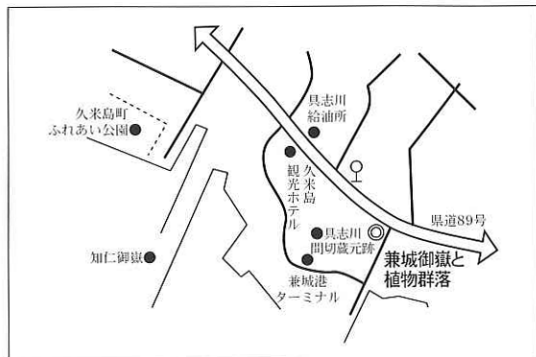
指定年月日 昭和51年6月30日
 (旧具志川村指定)

所有者 久米島町、新里盛保

具志川間切蔵元跡に隣接する兼城御嶽は、兼城ノ口の拝所であると同時に琉球王国時代は、兼城泊に寄港する唐船の航海安全の祈願所でもあった。

この御嶽は神聖な場所として、字の人でも滅多に入ったことがなく、原生林が手つかずの状態に残っている。

中、高木類には、タブノキ、アコウ、リュウキュウガキ、ムラサキシキブ、ガジュマル、クスノハガシワ、センダン、クワノハエノキ、ヤブニッケイ、ヒロウ、オオハマボウ、ソテツなどがある。低木



類には、クロツグ、ネズミモチ、サルカケミカン等が見られる。

拝所周辺の大木のほとんどに、亜低木のハブカズラが、枝の先まで巻き付いているのが特徴的である。つる性植物も多く、トウツルモドキ、リュウキュウボタンヅル、ノアサガオ、フウトウカズラ、ホウライカガミ、テリハノブドウなどが見られる。

他にもオオタニワタリなどのシダ植物、クワズイモなどの草本植物類等、多種多様な植物群落を観察することができる。